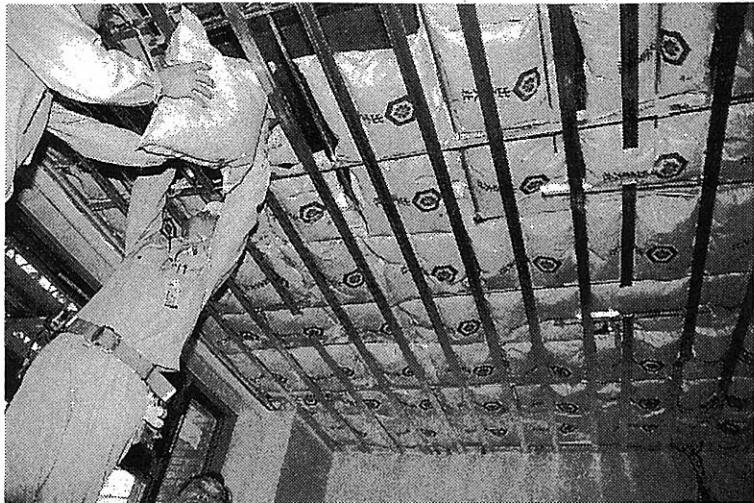


2010年(平成22年)12月15日 水曜日

「看護の女神」60年守った檜皮



炭に変身 病室天井裏へ

出雲大社（出雲市大社町）の大改修でふき替えられる屋根材の檜皮が炭に生まれ変わり、建設中の島根大医学部付属病院（塩冶町）の新病棟で活用されることになった。14日には病室天井裏に炭の袋を敷き詰める作業が始まつた。

（岡田和彦）

各社の屋根は、檜の樹皮を何層にも重ねる構造になっており、改修工事の進む本殿だ

建設中の
島大病院

「患者の生きる力に」

いたところだったという。

小林院長は出雲神話に関心が高く、大やけどを負った

の新病棟への導入を計画して

いたところだったという。

小林院長は「60年も看護の

神の社を守ってきた檜皮から生まれた炭は、効用はもとより患者に生きる力を与えてくれると思う」と期待する。

千家尊祐宮司は「古材が役に立ちあらがたい。患者さんとご縁を結ぶきっかけを作つていただいた」と喜んでいる。

新病棟は来年6月に完成する予定で、34室に炭を入れる計画をしている。

けで約40トンを交換する。廃材となる檜皮の活用を考え、市内の業者の技術を導入して炭への加工に取り組んでいる。

今回、これを知った付属病院の小林祥泰院長が大社に提供を要請した。湿度調整や消臭、保温などに効果がある炭

希望。大社では天前社と隣の御向社の檜皮から作った炭が入った3130袋を提供した。

天前社の檜皮から出来た炭を大国主命を救つた蛭貝比売命と蛤貝比売命は「看護の神」だとして、両女神をまつた

上 病室の天井裏に敷き詰められた炭の入った袋＝出雲市塩冶町
下 檜皮のふき替えを終えた天前社（右）と御向社。2社を60年間守ってきた檜皮が提供された。奥は改修中の出雲大社本殿＝出雲市大社町杵築東